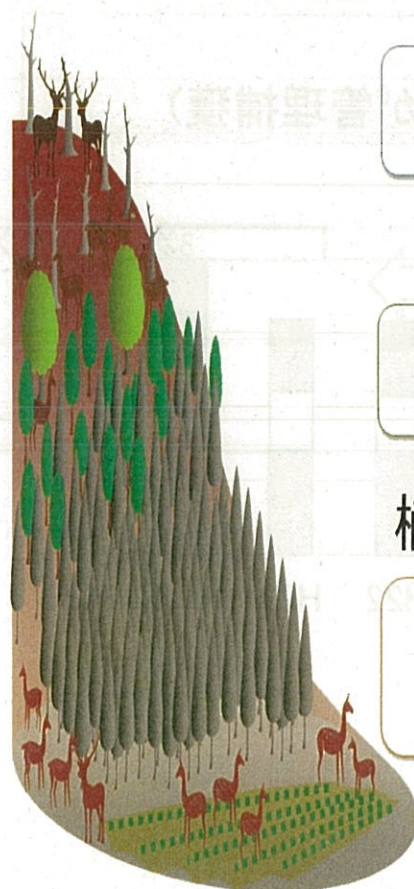




丹沢山地におけるシカ問題の変遷



戦後 シカ乱獲による絶滅の危機

シカ猟の禁止

1960年代から 植林地の苗木の食害

植林地の防鹿柵、猟区・保護区設定、捕獲解禁

1980年代から 林床植生の退行がはじまる

1990年代から 保護区でシカの高密度化

現在まで、林床植生に対するシカ影響は継続
山麓では、農作物被害も深刻化

近年におけるシカ保護管理の取組

2003～2006年度 神奈川県ニホンジカ保護管理計画

- ・保護管理計画に基づく科学的な管理がスタート

2004～06年 丹沢大山総合調査
2006年丹沢大山自然再生基本構想

2007～2011年度 第2次神奈川県ニホンジカ保護管理計画

- ・取り組みを強化(通年管理捕獲、メスジカ捕獲など)

第2次計画の実施状況・事業点検

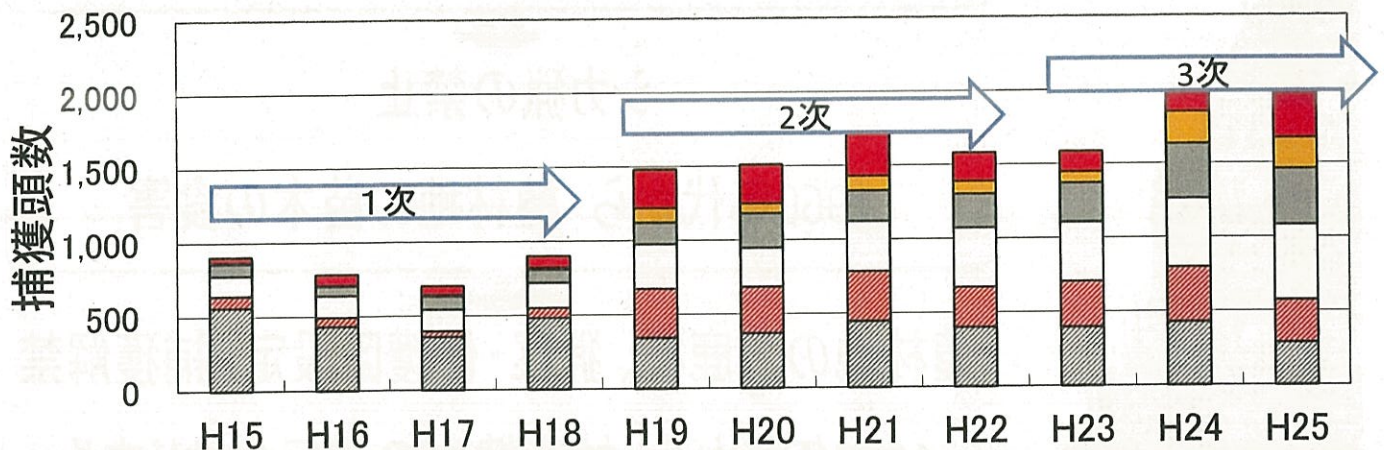
推定生息数3000～5500頭

2012～2017年度 第3次神奈川県ニホンジカ保護管理計画

3

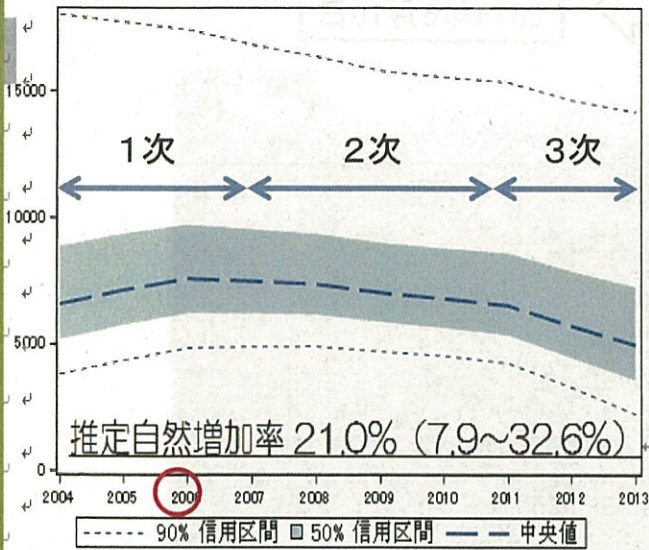
特定計画策定後の捕獲状況

- ・ 県管理捕獲を導入し、捕獲を強化
- ・ 第3次計画では、捕獲数は約2,000頭(約7割が管理捕獲)



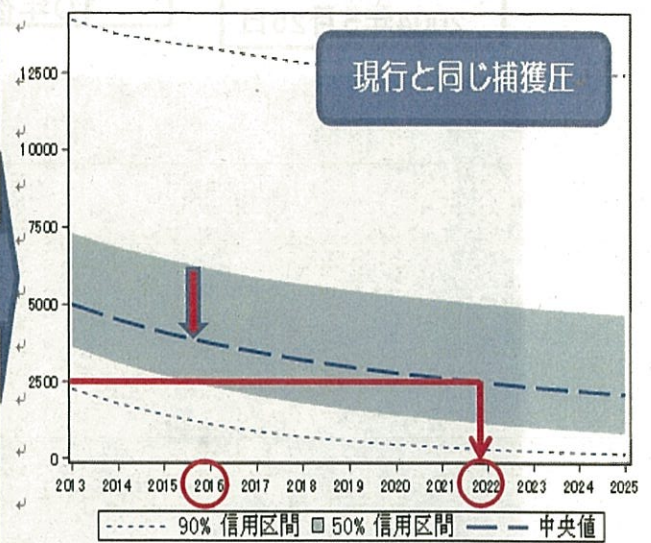
生息数推定(階層ベイズ法)の結果

＜個体数の推定結果＞



※個体数は2006年以降、管理捕獲の強化の成果があらわれて減少傾向に変化

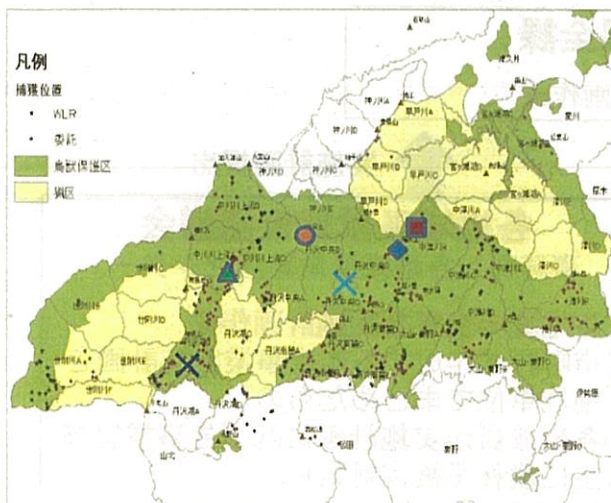
＜捕獲計画に沿った個体数の予測結果＞



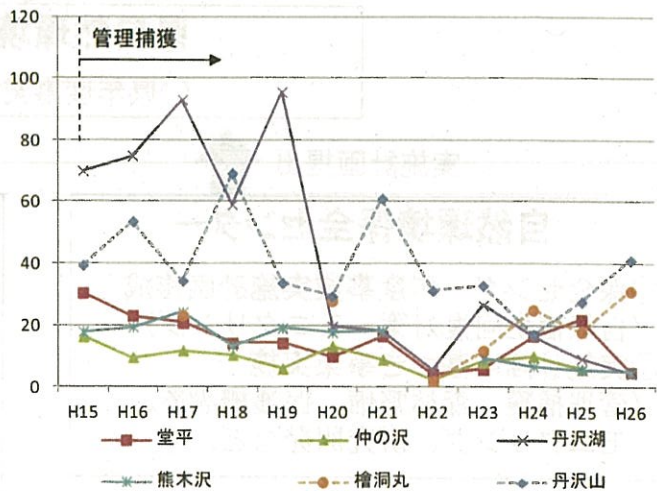
※現行と同じ捕獲率で捕獲を続けると、50%以上の確率で、2022年には、個体数が半減

高密度地区での継続的な管理捕獲実施

- 高密度・植生影響の強い地区(管理ユニット)から捕獲着手
- 3次計画に入り、高密度地区の大半で大幅な低下達成
- その結果、下層植生回復などの変化も確認



H26管理捕獲(植生回復・生息環境)の捕獲地点



推定生息密度(区画法)の推移(H15-26)

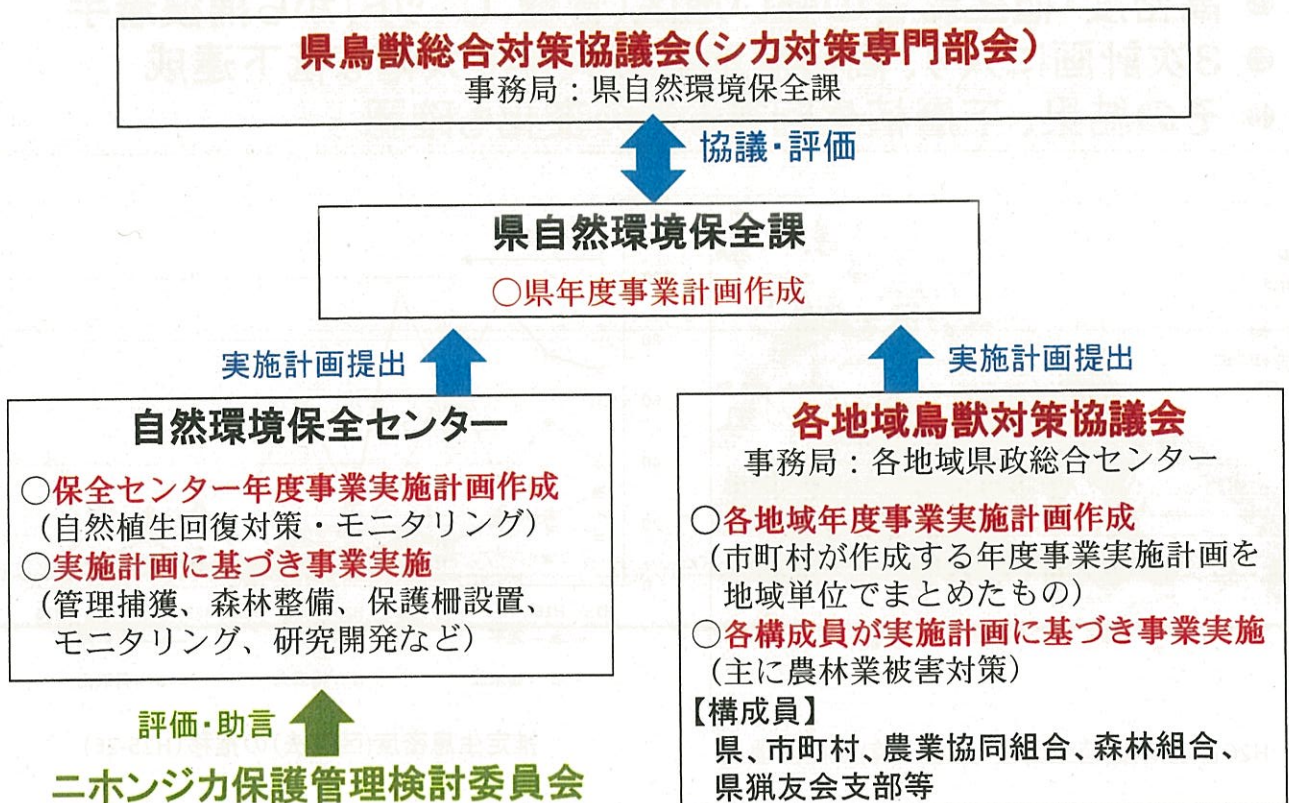
シカ管理、土壌保全等の統合的な取組の成果 東丹沢堂平



写真：鈴木雅一 氏

計画の推進体制

P・D・C・A





計画の策定・見直し

ユニット単位の
モニタリング

- 生息状況（区画法、糞塊法、行動域、目撃&捕獲効率、個体群の質）
- シカ影響（植生変化、累積利用圧、農林業被害）



植生コントロール柵

県管理捕獲での
捕獲情報収集

- 実施内容
- 捕獲地点
- 捕獲個体の年齢、体重、質、妊娠

科学委員会での
検討・評価

年次実施計画・次期
特定計画への反映



捕獲個体計測



捕獲の実行体制(Do)

立地・被害内容に応じた丹沢全体の実行体制を段階的に構築「住み分け」と「モニタリングに基づく年次捕獲計画」

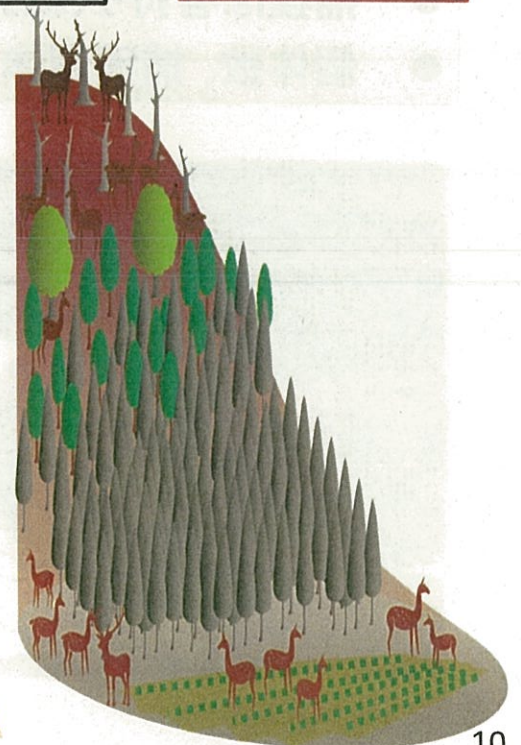
「すきま」のない
捕獲の展開

捕獲困難地・空白域
→ワイルドライフレンジャー捕獲

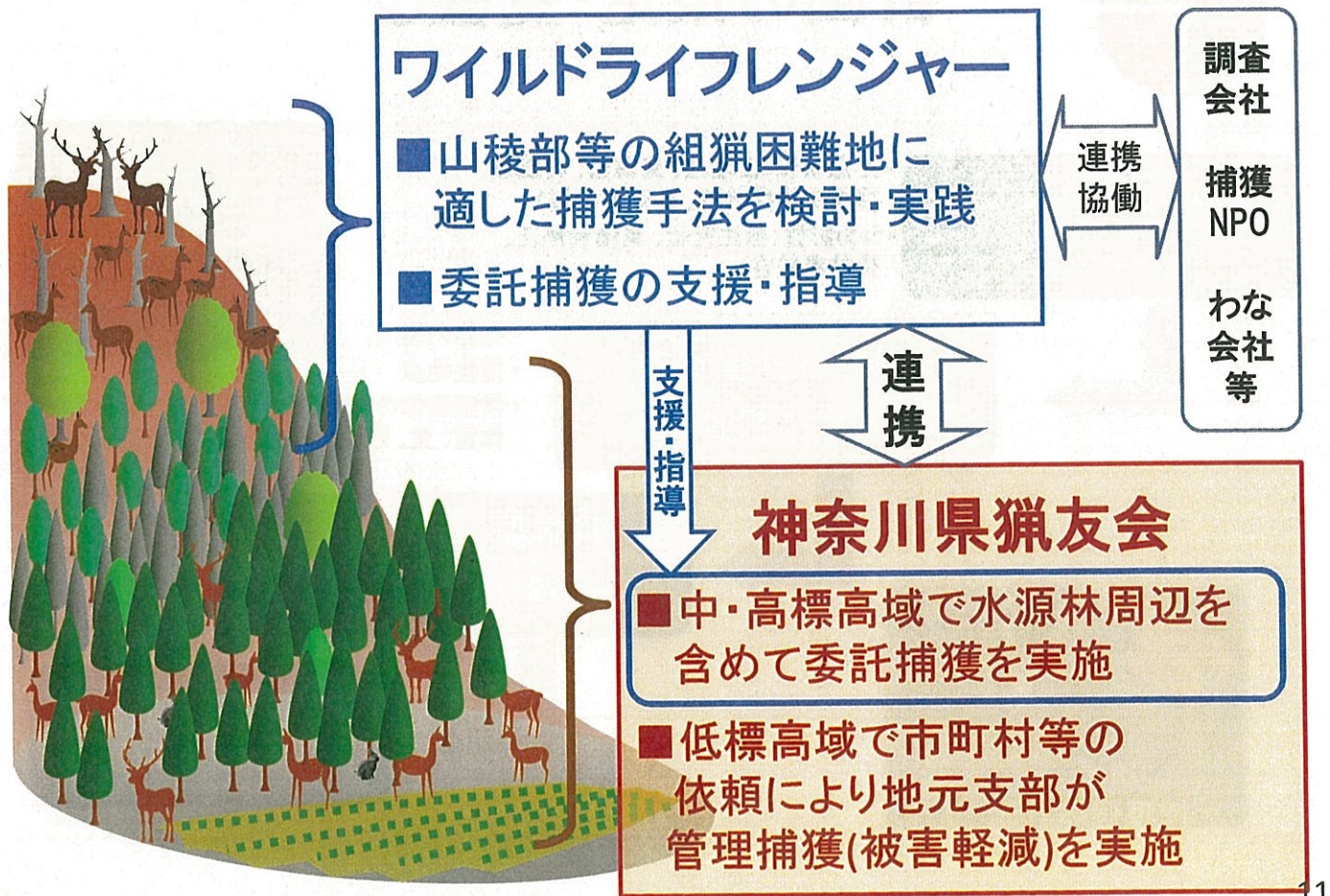
中高標高域の組猟適地
→県委託管理捕獲

山麓域の農地周辺・里山
→市町村管理捕獲

捕獲に適した地域
→狩猟



管理捕獲の住み分け



自然植生回復のための管理捕獲

- 県が県猟友会へ委託し、中高標高域で、計画的な捕獲を実施
- 捕獲は巻狩り(組猟)が主体
- 個体数、捕獲個体の質、植生等もモニタリング



過去3年間の実績

H25	340 頭	
H26	336 頭	83回
H27*	264頭	85回
(* 1月末現在)		

	H19	H22	H24	H26
捕獲効率	0.30	0.25	0.21	0.16
目撃効率		0.65	0.50	0.57

ワイルドライフレンジャーによる捕獲

- 野生動物保護管理や狩猟の専門的知識・能力・技術を有する職員
- 3名(H24~25) → 5名(H26~)
- 業務は
 - 1 山稜部(保護区)等捕獲困難地でのシカ捕獲
 - 2 県猟友会による委託捕獲の指導監督
 - 3 シカ捕獲に関する情報分析

過去3年間の捕獲実績

H25	177 頭	(メス 107頭)
H26	188 頭	(メス 108頭)
H27	237頭	(1月末現在)



- 忍び猟と流し猟が中心
- 追い出し猟、囲いわな・足くくりわな猟
- 少人数巻狩りも試行(県猟友会との連携)

13

目標達成に向けた課題 人材育成関係

行政人材

- ・計画策定・事業運営の専門人材の継続的育成確保(研修、資格、人事等)
- ・情報分析・技術開発・外部連携人材の配置

捕獲事業実施者

管理捕獲

- ・地元調整・現場管理
- ・柔軟な捕獲技能(銃猟、罠猟、新たな手法等)

レンジャー捕獲

- ・業務に見合う(捕獲と調査経験の双方)人員確保・育成
- ・持続的な雇用

業務を補完する
官民専門人材(大学・調査会社等)
も必要

14

目標達成に向けた課題 指定管理鳥獣捕獲等事業の推進関係

既存事業とのすみ分け

- 市町村許可捕獲(農林業被害)、狩猟等との調整
- 捕獲困難地・遠隔地での事業推進(事業者確保、環境整備)

事業評価への対応

- 目標達成、効率性； 捕獲困難地・遠隔地、低密度地での評価等
- 情報収集； 評価目的と改善目的の2本立て

実施事業者確保と指導・監督

- 競争性の確保 ； 資格、格付け
- 適正な事業推進 ； 目標達成 vs 安全確保、各種トラブル防止

ニホンジカのこと、 もっと知ってください

丹沢におけるニホンジカの保護管理の取り組み

